

目次

◆第2期 執行額の年度別実績・見込み	1
◆第1・2期 里山整備の年度別実績・見込み	2
◆第1・2期 里山整備実施中に発生した課題	3
◆第2期 里山整備の年度別実績・見込み	4
◆第2期 里山整備の成果	5

第2期 執行額の年度別実績・見込み

県全体

(金額単位:千円)

区分	H25	H26	H27	H28	H29*	計	
税収額	個人	539,958	540,912	537,453	549,348	542,315	2,709,986
	法人	127,417	125,497	125,237	129,048	123,980	631,179
	計	667,375	666,409	662,690	678,396	666,295	3,341,165
寄付金等額	191	193	630	14,803	123	15,940	
税収及び寄付金等額 A	667,566	666,602	663,320	693,199	666,418	3,357,105	
1	みんなで支える里山整備事業	431,713	432,698	254,482	372,604	464,400	1,955,897
	地域で進める里山集約化事業	31,154	30,885	8,985	6,864	7,200	85,088
	森林づくり推進支援金	130,000	128,429	128,766	129,999	130,000	647,194
求められる機能に応じた里山等の森林づくりの推進 B	592,867	592,012	392,233	509,467	601,600	2,688,179	
2	みんなで支える里山整備事業【搬出事業分】	4,287	7,532	7,840	5,845	16,100	41,604
	信州の木活用モデル地域支援事業	12,185	12,500	18,854	12,472	17,500	73,511
	信州フォレストコンダクター育成事業*	4,186	3,935	3,306	(817)	(1,181)	(1,998)
	間伐材等の利活用による継続的な森林づくりの推進 C	20,658	23,967	30,000	19,134	34,781	128,540
3	みんなで支える森林づくり推進事業	6,210	6,173	4,031	5,168	9,070	30,652
	森林(もり)の里親促進事業	475	957	1,035	647	1,240	4,354
	地球温暖化防止吸収源対策推進事業	415	387	344	402	471	2,019
	地球温暖化防止木材利用普及啓発事業	336	297	401	392	557	1,983
	木育推進事業	8,427	8,886	8,994	9,967	8,927	45,201
	里山利用総合支援事業	2,986	3,000				5,986
	里山活用推進リーダー育成事業			2,927	1,320	6,000	10,247
	里山と人との絆づくりを進める取組の促進 D	18,849	19,700	17,732	17,896	26,265	100,442
計(B+C+D+E)	632,374	635,679	439,965	546,497	662,646	2,917,161	
電算改修業務(税務課執行分) F						0	
合計(E+F=G)	632,374	635,679	439,965	546,497	662,646	2,917,161	
基金残高額(Aの累積額-G)	88,230	119,153	342,508	489,211	492,983		

* ... H27から「信州フォレストコンダクター活動支援事業」に名称を変更。()が執行額。

※ ... H29は予算額。

注意:四捨五入により一致しない場合がある

上伊那地域

(金額単位:千円)

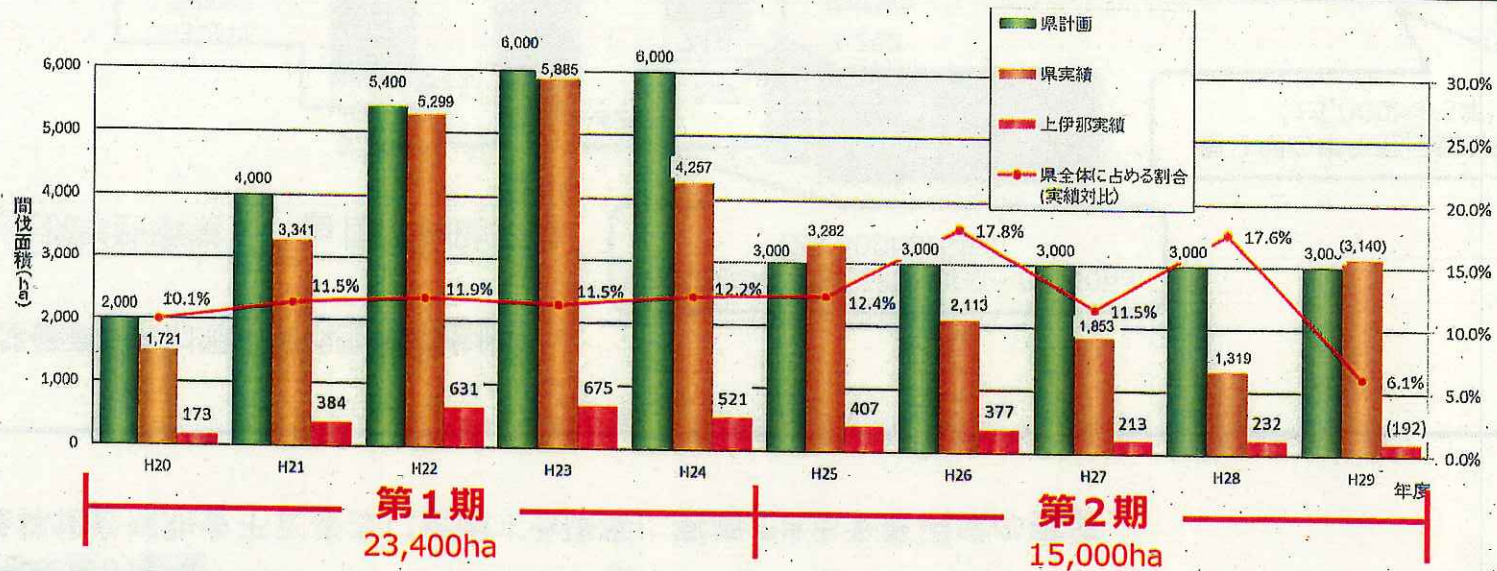
区分	H25	H26	H27	H28	H29	計	県全体に占める割合	
1	みんなで支える里山整備事業	63,585	44,931	28,117	53,496	47,719	237,848	12.2%
	地域で進める里山集約化事業	5,385	5,852	1,434	1,665	1,695	16,031	18.8%
	森林づくり推進支援金	12,958	13,277	12,091	12,825	13,240	64,391	9.9%
求められる機能に応じた里山等の森林づくりの推進 B	81,928	64,060	41,642	67,986	62,654	318,270	11.8%	
2	みんなで支える里山整備事業【搬出事業分】	1,271	1,064	1,229	1,120	503	5,187	12.5%
	信州の木活用モデル地域支援事業		2,500	2,500	2,500		7,500	10.2%
	信州フォレストコンダクター活動支援事業				90	63	153	7.7%
間伐材等の利活用による継続的な森林づくりの推進 C	1,271	3,564	3,729	3,710	566	12,840	10.0%	
3	みんなで支える森林づくり推進事業	477	527	482	507	474	2,467	8.0%
	森林(もり)の里親促進事業						0	0.0%
	地球温暖化防止吸収源対策推進事業						0	0.0%
	地球温暖化防止木材利用普及啓発事業						0	0.0%
	木育推進事業	1,112	1,815	1,262	1,585	1,282	7,056	15.6%
	里山利用総合支援事業	300	300				600	10.0%
	里山活用推進リーダー育成事業			300	300	200	800	7.8%
里山と人との絆づくりを進める取組の促進 D	1,889	2,642	2,044	2,392	1,956	10,923	10.9%	
計(B+C+D+E)	85,088	70,266	47,414	74,088	65,176	342,033	11.7%	

注意:四捨五入により一致しない場合がある

第1期に引き続き、第2期も里山の間伐を推進することが目的

- 県民に最も身近な森林である「里山」の間伐実績、放置による災害等への懸念に対応するため、里山の「間伐」を推進。

【第1・2期間伐実績】



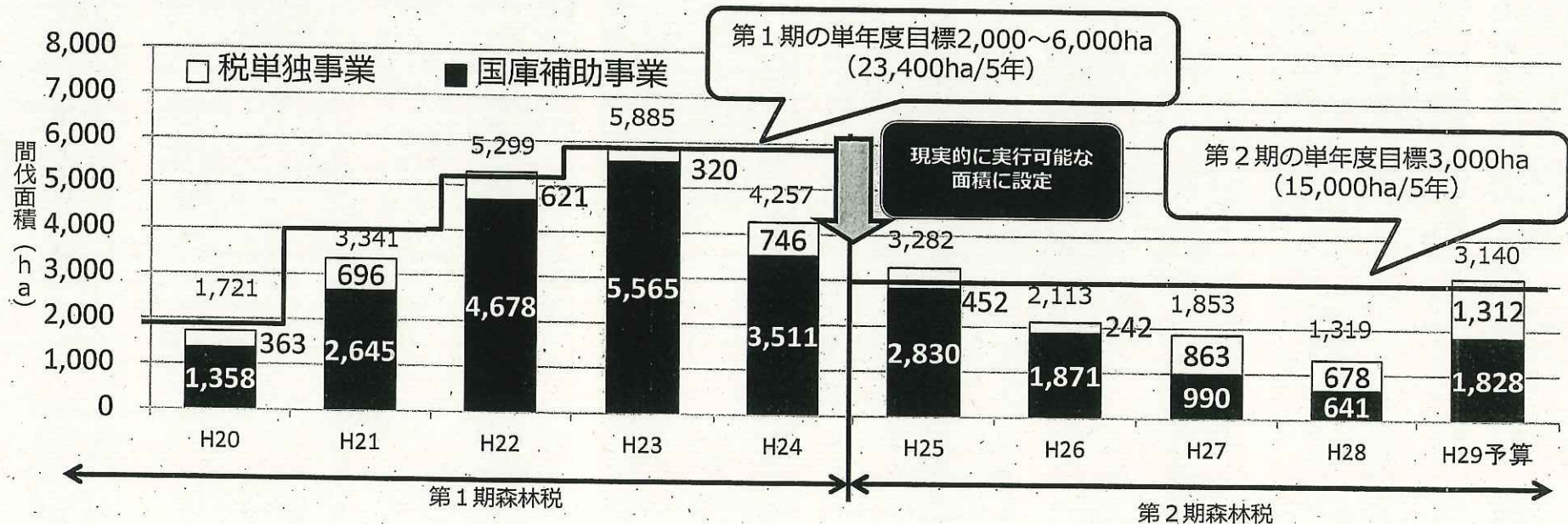
年度	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	計
県計画	2,000	4,000	5,400	6,000	6,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	38,400
県実績	1,721	3,341	5,299	5,885	4,257	3,282	2,113	1,853	1,319	(3,140)	(32,210)
上伊那実績	173	384	631	675	521	407	377	213	232	(192)	(3,805)
県全体に占める割合 (計画対比)	8.7%	9.6%	11.7%	11.3%	8.7%	13.6%	12.6%	7.1%	7.7%	6.4%	9.9%
県全体に占める割合 (実績対比)	10.1%	11.5%	11.9%	11.5%	12.2%	12.4%	17.8%	11.5%	17.6%	6.1%	11.8%

※ ()は見込み数字。

里山整備事業を取り巻く課題による事業実績の減少

- 森林税の有効な活用を図るため、国庫補助を活用して整備を実施してきた中での変化
 - 国の制度変更により零細な森林が補助対象になりにくくなった。
 - 所有者の不在村化や境界の不明瞭など山離れが一層深刻化し、条件が困難な場所が残る。
- その他の要因
 - 平成26年度の豪雪
 - 大北森林組合補助金不正事案に起因する確実に実施できる予算編成の実施

【全県の里山整備事業の財源別間伐面積の推移】



第2期 里山整備の年度別実績・見込み

4

【第2期 間伐実績】

単位:ha

年度	H25	H26	H27	H28	H29	計
県計画	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	15,000
県実績	3,282	2,113	1,853	1,319	(3,140)	(11,707)
上伊那実績	407	377	213	232	(192)	(1,421)
県全体に占める割合 (計画対比)	13.6%	12.6%	7.1%	7.7%	6.4%	9.5%
県全体に占める割合 (実績対比)	12.4%	17.8%	11.5%	17.6%	6.1%	12.1%

※ ()は見込み数字



H29年度 伊那市富県 桜井団地 間伐状況

【第2期 間伐材搬出支援実績】

単位:m3

年度	H25	H26	H27	H28	H29	計
計画	2,000	3,000	4,000	5,000	6,000	20,000
実績	1,225	2,152	2,442	1,470		7,289
上伊那実績	363	195	351	355	(144)	(1,408)
県全体に占める割合 (計画対比)	18.2%	6.5%	8.8%	7.1%	2.4%	7.0%
県全体に占める割合 (実績対比)	29.6%	9.1%	14.4%	24.1%	#DIV/0!	19.3%

※ ()は見込み数字



H27年度 辰野町沢底 間伐材の薪利用

反省点

- ◆ 県全体として第2期では、里山の間伐の目標面積を下げて取り組んできたものの、所有が細かく零細な森林など、より条件の困難な場所が未整備のまま残っている。
- ◆ 国の制度変更の影響を受け、NPOや小規模な事業体など多様な担い手の育成につなげられていない。
- ◆ 未整備のまま残っている里山の状況について、県の課題分析が遅れて機動的に事業を見直すことができなかった。(H29年度は、計画箇所を特定して実施)
- ◆ 国庫事業を活用した搬出間伐の取組は県全体として進んできている一方で、森林税を活用した間伐材の搬出は進まなかった。
- ◆ 実施にあたって、集約化と施業実施が同一年度となり、思うように進捗せず、実施が遅れる事例が生じた。

成果

- ◆ 里山の間伐については、5年間で全県目標15,000haの10分の1の1,500haに対し、1,421haの間伐が実施される見込であり、県民の身近な森林である「里山の間伐」が一定程度進んだ。
- ◆ 里山整備事業以外の森林税活用事業を通じて、人材育成の取組や間伐材利用のモデル的な取組を支援してきた結果、地域材の新たな活用(組立多用途ブロック、棺桶等)や里山資源の活用(きのこ、セラピーロード等)を通じて、里山整備につながる取組が始まってきている。